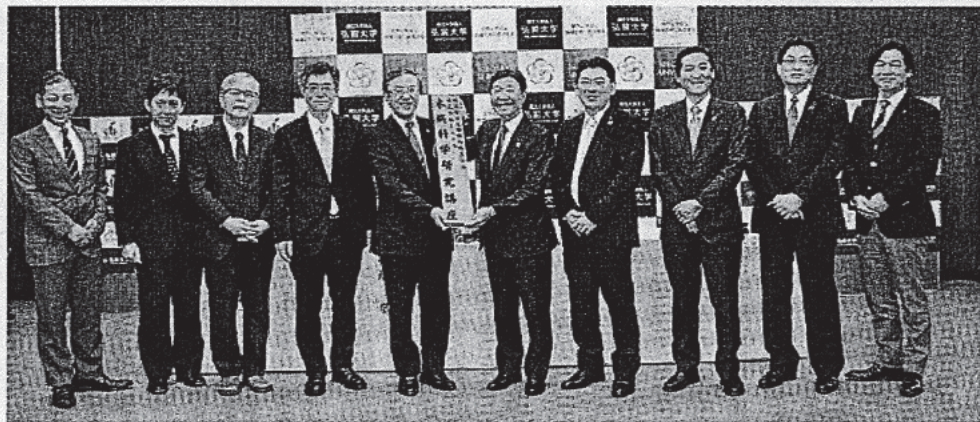


# 「未病科学研究講座」開設

## 弘大のデータ活用と 予兆発見へモデル開発 明治安田生命など

### 健康寿命の延伸に期待



共同研究講座「未病科学研究講座」を設置し、看板を掲げる関係者たち

弘前大学（佐藤敬学長）と明治安田生命保険相互会社（本社東京都）、ヘルスケアベンチャーであるミルテル（本社広島県）は7日、共同研究講座「未病科学研究講座」を開設した。疾病の一つ前の段階の未病を定量化し、疾患の予兆発見や健康増進につなげていこうという取り組みで、本県の「短命県返上」や、健康寿命の延伸につながることを期待される。

（成田真由美）

ミルテルは弘大の岩木健康増進プロジェクトのビッグデータを活用し、遺伝子レベルで未病状態を知る「未病

検査（テロメアテスト）」から、未病の定量化を進め未病予防につなげるモデルを開発する。明治安田生命はこのモデルから商品化や、アドバイザー約3万人が「健康コンサルシユ」となり顧客一人ひとりに生活習慣や健康についてアドバイスし、健康への意識づくりを働き掛ける。

同講座は中路重之特任教授を筆頭に4人で構成。2019年1月～21年12月の3年間、設置する。

同日、弘前大学医学部大会議室で共同研究講座の開設式が行われ、明治安田生命の鈴木伸弥会長、ミルテルの田原栄治社長、佐藤敬学長、若林孝一副学長らが出席。本県の短

命県返上に貢献し、国内、田原社長は「弘大な大きな力になる。内はもとよりアジアをはじめ海外にも波及させるべく、検査データと突き合わせて、疾患予防のサポートや仕組みづくりを進めたい」と意気込みを語った。佐藤学長は「弘大C O Iプロジェクトの新たな最大の狙い」と、田原社長は「長年の成果を（ミルテルの）検査データと突き合わせて、疾患予防のサポートや仕組みづくりを進めたい」と意気込みを語った。佐藤学長は「弘大C O Iプロジェクトの新たな最大の狙い」と、田原社長は「長年の成果を（ミルテルの）検査データと突き合わせて、疾患予防のサポートや仕組みづくりを進めたい」と意気込みを語った。佐藤学長は「弘大C O Iプロジェクトの新たな最大の狙い」と、田原社長は「長年の成果を（ミルテルの）検査データと突き合わせて、疾患予防のサポートや仕組みづくりを進めたい」と意気込みを語った。